

福岡みらい病院で

脳卒中リハビリテーションを受けられた患者様へ

当院リハビリテーション科では下記の臨床研究を実施しております。

本研究の対象者に該当する可能性のある方で診療情報を研究目的に利用されることを希望されない場合は、下記の連絡先にお問い合わせください。お申し出になられても、いかなる不利益も受けることはありませんのでご安心ください。またご希望により、この研究に参加してくださった方々の個人情報保護や、この研究の独創性確保に支障がない範囲で、この研究の計画書や研究の方法に関する資料をご覧いただくことができます。この研究は当院の倫理審査委員会の審査を経て、院長の許可を受けて実施しています。

研究課題名	脳損傷者の Self-Awareness 評価法「Self-Awareness of Deficits Interview (SADI)」の日本語版作成および信頼性・妥当性の検討
当院の研究責任者（所属）	高橋 真紀（リハビリテーション科） 木村 愛（リハビリテーション科）
本研究の目的	本研究の目的 セルフアウェアネス（Self-Awareness）とは、自分自身の状態や行動に対する気づき・理解を指します。 本研究では、海外で用いられている評価法「Self-Awareness of Deficits Interview (SADI)」の日本語版を作成し、その信頼性および妥当性を検討することを目的としています。 本研究の成果により、患者様の気づきの特徴をより正確に評価し、リハビリテーションの方針決定に役立てることが期待されます。
調査データ該当期間	西暦 2024年4月1日～西暦 2027年3月31日
研究方法	●調査の対象となる患者様 当院においてリハビリテーションを受けられた脳血管障害患者のうち、主治医の診断で研究対象基準（意思決定可能、言語能力により評価実施可能等）を満たす方。 ●研究方法 脳卒中を呈した患者様を対象に、セルフアウェアネスの評価を行い、既存の評価法との関連を分析します。 使用する評価は以下の通りです： ・ Self-Awareness of Deficits Interview (SADI) 日本語版試案 ・ Awareness Questionnaire (AQ) 日本語版 ・ Mini-Mental State Examination (MMSE) ・ Trail Making Test (TMT) ・ Wisconsin Card Sorting Test (WCST) ・ Digit Span ・ Rey複雑図形課題 <電子カルテに記載のある診療情報> 年齢、性別、損傷半球、教育歴、FIM、発症からの日数など、診療情報を利用します。
個人情報の取り扱い	診療情報は匿名化し、個人が特定されないよう管理します。 研究データは、大阪公立大学の研究責任者のもとで、パスワード付き電子システム（REDCap）および鍵付きロッカーにて厳重に保

	管されます。 データの保存期間は研究終了後5年間で、期間経過後は完全に削除または裁断されます。
本研究の資金源 (利益相反)	本研究は外部資金の提供を受けておらず、利益相反はありません。なお、研究参加の謝礼はありません
お問い合わせ先	福岡みらい病院 リハビリテーション科 電話：092-662-3001 (代表) 研究責任者：高橋 真紀・木村 愛